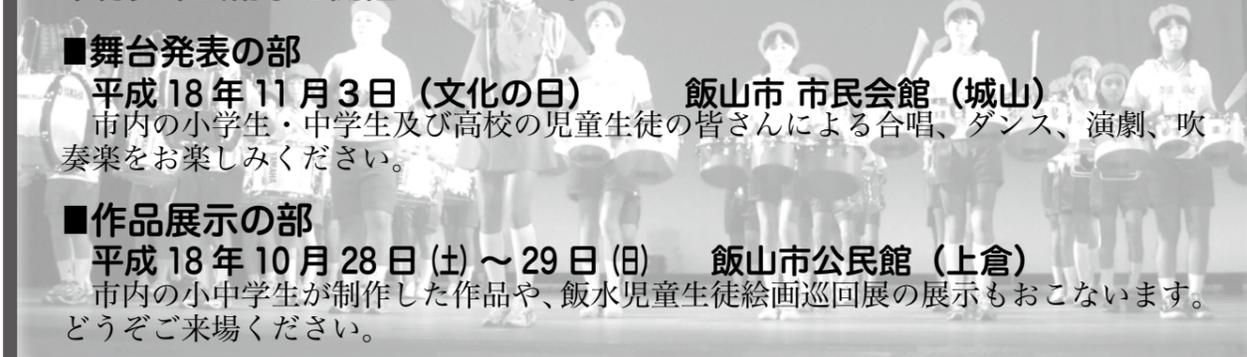


第27回 飯山市青少年芸術祭

青少年の芸術文化活動を発表する機会をつうじて、芸術文化に対する関心を高め、青少年の健全な育成と市民文化の高揚を図る目的で、今年度も飯山市青少年芸術祭を開催いたします。

- 舞台発表の部
平成18年11月3日(文化の日) 飯山市市民会館(城山)
市内の小学生・中学生及び高校の児童生徒の皆さんによる合唱、ダンス、演劇、吹奏楽をお楽しみください。
- 作品展示の部
平成18年10月28日(土)～29日(日) 飯山市公民館(上倉)
市内の小中学生が制作した作品や、飯水児童生徒絵画巡回展の展示もおこないます。どうぞご来場ください。



★★マイオピニオン 意見・私見

「富倉で頑張っています。」

富倉地区 丸山勉

今、この地方近在で行われているイベントの草分けとも云える「富倉の朝市」は、昭和62年に第1次村おこしで始まり、平成2年には第2次むらおこしの滞在体験型施設「ふるさとセンターかじか亭」がオープンしました。そして地域の特色をいかして、朝市とあわせ春の山菜まつり、秋の新そば祭り、と本格的なイベントが始まり、地域の活性化にインパクトを与え、各集落でも村おこしに取り組みようになり、滝乃脇集落では、鉱泉と天然ガスを利用して協同浴場金平(かなひら)の湯を造りました。また倉本集落でも豊富な鉱泉を温泉登録して、各家庭に引き湯し、さらにだれでも汲み取りが出来る鉱泉スタンドを造って皆さんから利用していただいております。料金は施設管理費として1リットル当たり1円をお願ひしております。健康に効果がありますので利用してください。

さて、月1回(5月、11月)の朝市も周辺地域で色々なイベントが行われる様になって客足が遠のき、ついに平成15年に16年間続いた朝市も廃止のやむなきに至りました。残念なことですがしかたがありません。それでも、5月に行う春の山菜祭り、11月に行う秋の新そば祭りは、地域の一大イベントとして、かじか亭を中心盛大に行われ、大勢のお客さんおいでをいただいております。



ただ最近の社会的世相から、過疎地域では、そこに住むために必要なものが次々と無くなっていくことを大変憂っています。それでも私はこの地で生きていく喜びを感じながら、これからも皆さんと力を合わせ頑張っていきたいと思っています。

かじか亭はオープン以来富倉地区活性化の核として、ふるさとセンター事業組合が健全な経営を行っており地域に貢献しています。今年の新社祭りは、11月12日の第2日曜日、朝8時からの朝市から始まって、終日活性化センター前でい

丸山勉さんは、熱血的で豊富なアイデアの持ち主です。そんな丸山さんは、今年倉本区長をされています。地域住民の先頭に立ち大変忙しい毎日を送られています。
広報部員 大塚幸広

★★マイオピニオン 意見・私見

「田舎ぐらし」

岡山地区 今野公義

7年前、長患いの妻を何とか元気にさせたいと、あちらこちらで温泉湯治をしていたが、いつそ田舎に落ち着いて転地療養をした方が・・・と話し合い、以前から縁があつて何度も来ていた飯山が、どうも体に合うようだというので思い切って古民家を手に入れ、自分でリフォームして移り住んだ。
豪雪地とは以前からよく知っていたし、冬も何度も来てみて知ってはいたが、見るのと住むのとは大違い、特に今年の冬はどうなることかと思つたが、妻は雪の降る時期はとも調子が良く、丸6年になるがほとんど寝込むことはなくなり、普通の生活ができるようになったので、越してきて本当に良かったと思う。
長年東京を中心に寝具小売業を

してきたが、小さな畑でアスパラを栽培したりして自然を相手に暮らしてみると、ここ飯山は四季がはつきりして素晴らしい景色と、おいしい空気、野菜、そして何より村の人達が温かく迎え入れてくれることが一番嬉しい。
村のお祭りや公民館主催のゲートボール大会、納涼祭り等、また老人クラブ活動など地元の人達との交流も深まり、夫婦共に元気で村人として暮らしていけたらこんな幸せはないと話合っている。
孫達も田舎ができて大変喜んでいりし、「じいじ」と「ばあば」の作った野菜をおいしいと言つて食べてくれる。7年前までは考えられなかったことだ。
老後の幸せとは、こういうことなんだと思う。

箱入り娘

笑顔集まれ!

飯山市立戸狩小学校 教頭 片桐 健

少しだけ下さい母の愛

寒い日雪のふりしきる夜、私は母に捨てられた。
泣くことしかできなかった私。
私が幼稚園のとき、もう一人の母が嫁いできた。ほどなくその母も私から去っていった。月日はどんどん過ぎ去り、そして今、私は学院に弟は養護施設に、家族はばらばらになつてしまった。
だからといって私は母を責めたりはしない。我が子を捨てて家を出るにはそれだけの理由があつたのだろう。つらかつただろうだから責めたりはしない。無理とわかつて私ほほしい。この世に神がいるのならせめて一目だけでも、一度だけ一度だけでもお母さんと呼んでみたい。おかあさん!

先日、偶然、この詩に巡り会つた。何か胸を締めつけられるような思いで一文一字一行を目で追つていた。最後の1行は、どんな声で読めばいいのかわからなかった。
どんな状況であるにせよ、切ない想い、寂しい想いを味わうのは子どもたちだ。それでも、この子は、母を慕う。その健気な一言一言がよけいに響いてくる。
親を殺してしまう子ども。そして、子どもを殺してしまふ親。信じられなくてもそんな現実がある。それがいつの出来事だったのか。どこでの出来事だったのか。それが分からなくなり、当たり前になつてしまふ自分があることが悲しい。

学校にいて、子どもたちと過ごし、親とつながり合うことに携わる仕事をしながら、今、自分に何ができるのか。何をしていたらいいのか。はつきりと先が見えてこない。

ただ、子どもたちには、「自分のことをうんと大事にしてね。」「自分のことを大好きだつて感じられる自分になつてね。」と。
親には、「子どもの息づかいを感じ、子どもと同じ方向を向いてあげてください。」「何よりいきいきと生きていく自分の姿を見せてあげてください。」と。
そして、先生たちには、「子どもたちなりに、毎日それぞれに、重い荷物を背負い、それでも、学校に、そして、先生に会いに来てくれる子どもがいることを感じてください。」と。お願いするしかないのかもしれない。
今日も、開けられた職員室の戸から顔を出し、「片桐教頭先生、さようなら。」と言つてくれる1年生がいる。心の中で、「明日もいい一日になるといいね」「やっばり、明日も『笑顔集まれ!』だよ。」て言いたくなつてくる。

歴史講演会

山本勘助をめぐって

信州大学出前講座 総合学習センターフェスティバル PART2
■日時 10月21日(土) 午前10時
■場所 総合学習センター 飯山市公民館 講堂(入場無料)
【お問い合わせ先】 飯山市公民館 飯山市ふるさと館